

会 議 録 (概要)

会議の名称	令和4年度 佐渡市高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施連携会議
開催日時	令和5年3月9日(木) 13時30分開会 15時05分閉会
場所	佐渡市役所 大会議室
議題	高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施について
会議の公開・非公開 (非公開とした場合は、その理由)	公開
出席者	<p>参加者 (公務員除く)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係団体9名 <p>(公務員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新潟県佐渡地域振興局健康福祉環境部地域保健課 課長代理 中川 圭子 ・佐渡市市民生活部 健康医療対策課 課長 安達 尚美 ・佐渡市社会福祉部 社会福祉課 課長 知本 政則 ・佐渡市社会福祉部 高齢福祉課 課長 出崎 弘美 ・佐渡市地域振興部 地域づくり課 課長 遠藤 隆行 ・佐渡市教育委員会 社会教育課 課長 市橋 秀紀 <p>事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> ・佐渡市市民生活部 市民課 課長 倉内 学 ・佐渡市市民生活部 健康医療対策課 保健係 保健師 後藤 英美 ・佐渡市総合福祉相談支援センター 主任保健師 廣嶋 里美 ・佐渡市社会福祉部 高齢福祉課 主任保健師 飯田真由美 ・佐渡市両津支所 福祉保健係 係長 海老名美香 ・佐渡市相川支所 福祉保健係 主任管理栄養士 吉良美代子 ・佐渡市羽茂支所 福祉保健係 主任保健師 鶴間 利恵 ・佐渡市市民生活部 市民課 保険年金係 調査員 中川 孝文 ・佐渡市市民生活部 市民課 保険年金係 主任保健師 石塚 秀美 ・佐渡市市民生活部 市民課 保険年金係 主任 丹穂沙耶香
会議資料	<ul style="list-style-type: none"> ・資料 No. 1 「高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施連携会議について」 ・資料 No. 2 - 1 「令和4年度一体的実施事業報告について」 ・資料 No. 2 - 2 「令和4年度一体的実施事業評価シート」 ・資料 No. 3 「佐渡市高齢者の保健事業と介護予防等の一体的な実施に関する基本方針(案)」
傍聴人の数	0人
備考	

会議の概要（発言の要旨）	
発言者	議題・発言・結果等
市民課長	<p>1. 開会のあいさつ</p> <p>高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施（以下「一体的実施」）については、関係機関、関係部署が連携し、一体となって取り組んでいく必要がある。</p> <p>佐渡市における一体的実施は、令和4年度より相川圏域で開始した。令和6年度までに佐渡市全域での実施を計画していたが、関係機関各所の協力により、1年前倒しし、令和5年度より全域実施を予定している。より良い事業実施に向けて、活発なご意見、ご検討をお願いしたい。</p>
保険年金係主任	<p>2. 説明</p> <p>(1)会議概要説明「佐渡市高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施連携会議について」</p> <p>資料 No. 1 により説明。質疑なし。</p>
保険年金係主任保健師	<p>(2)説明「令和4年度事業報告」</p> <p>資料 No. 2 - 1、2 により説明。</p>
委員 A 氏	<p>相川の事業対象者は何人だったのか。</p>
保険年金係主任保健師	<p>相川圏域の健診受診者は275名。そのうち17名が栄養改善事業の、7名が生活習慣病重症化予防の対象者。</p>
委員 A 氏	<p>健康状態不明者は。</p>
保険年金係主任	<p>20名のうち、市や包括支援センター等の関りがまったくない7名を対象とした。</p>
委員 B 氏	<p>栄養改善事業対象者の中に低たんぱくに該当する者がいたか。</p>
相川支所主任管理栄養士	<p>比較的しっかり食べている人が対象としてあがっていた。</p>
委員 C 氏	<p>栄養改善事業等において、ケアマネ等との連携はあったか。</p> <p>フレイル相談事業において、職能団体等からの協力はあったか。</p>
保険年金係主任保健師	<p>1名デイサービスを利用している対象者がいたが、ケアマネとの連携が必要な事例はなかった。</p> <p>フレイル相談については、栄養ブースは市の栄養士、総合相談ブースは包括支援センター職員、口腔ブースでは在宅歯科医療連</p>

<p>保険年金係主任保健師</p>	<p>携室の歯科衛生士から従事してもらった。相談者の利用時間にムラがあり、利用者がおらずに待機する時間帯があれば、混雑し待たせる時間帯もあり、専門職の従事時間の調整に苦慮している。そのようなこともあり、現時点ではその他の職能団体には協力をお願いしていない。</p> <p>(3)説明「令和5年度基本方針」 資料 No. 3 により説明。</p>
<p>保険年金係主任</p>	<p>「補足説明」 健診受診率や健康学習会等の参加者を増加させるための新規事業として、個人インセンティブの提供を令和5年度より予定している。また、運動習慣の定着を図るため、ラジオ体操の普及啓発を行っていく予定になっている。</p>
<p>委員 A 氏</p>	<p>令和4年度の事業対象者で改善した者はよいが、改善しなかった者について、令和5年度も対象となるのか。悪いまま放置することになるのが心配である。</p>
<p>保険年金係主任保健師</p>	<p>令和4年度の事業対象者が令和5年度も健診を受診し、事業対象者となった場合は、地区担当がフォローしていく。</p>
<p>委員 B 氏</p>	<p>3. 意見交換</p> <p>栄養指導については効果があった。取り組んでよかった。やせていても元気な高齢者は多い。低たんぱくで具合の悪い人は多いので、栄養改善事業を低たんぱくでひっかけることはできないか。</p>
<p>保険年金係主任保健師</p>	<p>佐渡市の健診では、総蛋白の検査は行っておらず、健診結果で低たんぱくの高齢者を把握することはできない。</p>
<p>委員 B 氏</p>	<p>体重を増やすだけの事業でなく、食べられない人やBMIの高い人なども対象とした事業に見直すと良いと思う。治療しても退院後に歩けず寝たきりになる人が多い。栄養指導でフレイルを予防し、健康を維持できると良い。これからは医療資源も少なくなっていくことも含めて、事業の拡大が必要。</p> <p>貧血については、相川圏域では該当者が少なかったが、様々な疾患を見つけるためには大切。これからも取り組んで欲しい。</p> <p>事業を拡大するにはマンパワーも必要。やれる範囲で効果のあるものを続けて欲しい。</p>

委員 A 氏	<p>全域に拡大すれば、関係者は大変だと思う。うまく進めてもらいたい。</p> <p>ポイント事業は抽選ではなく、ポイントをせっかく貯めたら何かもらえる事業になると良い。</p>
委員 D 氏	<p>会議に参加し勉強になった。フレイル予防には薬剤師も関わっている。これからもバックアップしていきたい。</p> <p>大学等との共同研究で糖尿病等の患者に薬剤師がアプローチすることでどう変わるかという研究もしている。フィードバックできるものがあればしていきたい。</p>
委員 E 氏	<p>実績や評価で得たものから、どのように介護予防をしたらよいか、具体的に教えていってもらいたい。</p>
委員 F 氏	<p>保健師、栄養士が頑張っていることがわかった。このような取組は 75 歳からでなく、年齢をさげて実施していただきたい。</p>
委員 G 氏	<p>コロナ禍になり、集まりへの参加者は急激に減少した。令和 5 年度は規制がなくなっていき、参加者が増えることを期待している。</p> <p>佐渡市健康推進協議会では「みんなでやらんかさ」という日めくりカレンダーを作成した。かかとのあげさげやちょっと歩こう、みんなでご飯を食べようなど、簡単に実践していることを紹介している。活用してもらいたい。</p>
佐渡地域振興局課長代理	<p>限られたマンパワーの中で、様々な取組を行っておりすごいと思った。ハイリスク者は健診を受診していない人の中にもいる。その方たちへのアプローチをどうしていくかが今後の課題と感じた。</p>
委員 H 氏	<p>始まったばかりの事業のため、まだ具体的な成果は見えにくい。コロナ禍でもあった。今後は進めやすくなるだろう。自分たちのところでも何ができるか考えていきたい。</p>
委員 C 氏	<p>職能団体や福祉関係機関を巻き込んで、地域一体となって進めていけると良いと感じる。フォローの実施率を向上させるためにも、巻き込んでいって欲しい。</p>
健康医療対策課長	<p>健康医療対策課は実働の部署。相川圏域では、おおよそ達成できていて安心した。全域になると専門職の力量を問われる。しっかり進めていきたい。</p>

<p>社会福祉課長</p>	<p>この事業は保健師、栄養士だけではできない。様々な専門職や職能団体、民間なども含めてオール佐渡で取り組める仕組みが必要である。</p> <p>健康状態不明者の実態把握については、アプローチをする上で苦労があったのではないかと推察する。</p> <p>栄養改善事業については、健診が夏場で評価が冬場ということで事業評価が難しいと感じた。翌年も対象となり継続支援をしていくと見えてくるものもあるか。</p>
<p>高齢福祉課長</p>	<p>介護予防とフレイル予防の担当課であるため、ますます「しっかりやらなくては」と感じた。すぐに効果がでにくい事業である。各所に協力いただき進めていきたい。</p>
<p>地域づくり課長</p>	<p>地域づくり課では「地域コミュニティ交付金」があり、地域の困りごとに活用していただける。コロナ禍で人と人との付き合いが減っている現状を見聞きしている。高齢者はもともと外出しにくい状況のところコロナ禍が重なり、更に外出しにくい状況になっている。交付金を活用して、高齢者の集まる機会を作ってもらいたい。</p>
<p>委員B氏</p>	<p>佐渡地域医療・介護・福祉提供体制協議会では「攻めの医療」という言葉が出ている。早い段階で受診に繋ぎ、入院させない取組がこれからの佐渡で進めていくべきことと考える。</p> <p>4. 閉会</p>